

野木小同窓会報

第5号
平成2年12月
野木小学校同窓会編集部

会報の発刊にあたって

第二十三回卒
同窓会長 喜多利夫

台風十九号の通過による大変な豪雨で洪水に見舞われましたが、故里にはひどい被害も無くて終わり、秋晴れの日々を迎えている昨今でございます。

台風に申し入れていましたところ、ご理解を得て大規模改修工事が施工されました。外観内装共に見違えるようになり、一部教室の改装で児童の教育環境も一段と完備されました事は教育の充実に期待する事多く皆さんと共に喜び申し上げますと共に御礼を申し上げます。

会員の皆様にはますます御健勝でお励みの事と拝察致します。本年は第五回の会報発刊を企てましたところ、会員多数の方々の御投稿を賜り御協力を得まして発刊できます事を厚く御礼申し上げます。

近況ではありますが野木の里の教育の殿堂である小学校の校舎も木造より現在の校舎に改築されてから二十余年を経過致し、各所で改善箇所ができました。そこで、関係各位の度重なる要望を町当局

万葉の歌に
銀も金も玉も何せむに
勝れる宝子に及かめやも
と歌われている通り古代よりわが国は子供は宝である。いかに生活が豊かであろうが貧しかろうが子供を生み育てる事が人生の喜びでありました。国の制度も教育基本法が確立され初等教育の礎を造り上げ、

中等高等教育の伸展へと進み人材の育成がなされている結果が現在の豊かな日本が生まれ世界唯一の経済大国にまで国勢が伸びて参り世界の国々をリードしていく民族にまで成長してきました。

翻って世界子供サミットが近々催されるようですがこれまた子供の育てに明暗があるからだと思います。次の世代を継ぐために大切な事と存じます。世界は大きく動きつつあって米ソの緊張の緩和が一挙にして平和への道の扉が開かれつつあると信じられ、これからの教育は世界の人々の仲間入りの出来る子供を、そして大人を育てなくてはならないと思えます。

宝である子供はわが家の宝でもあり世界の宝でもある事を深く認識して育てあげねばならないと思えます。

教育の殿堂が完備され、良き経験豊かな教育者をお迎えし、故里に住む私達と三者一体となって児童の輝かしい発育を望みたいものであります。発刊にあたり所見の一端を述べてご挨拶と致します。会員の皆様の御多幸をお祈り致します。

母校の温かさ



第三十八回卒
校長 鹿野公夫
(旧居関)

真夏の太陽が焼けつく中、日に日に化粧直しが出来あがり、八月三十日本校の大改修工事の仮検査が済み、新鮮な気持ちで二期を迎えることが出来ました。これ偏に同窓会長さんをはじめ、会員の皆様、地区民の方々の御尽力の賜物と先ずもって厚く御礼を申し上げます。

その後、校庭整備が行われ既に会報等三号・特集号で報告の通り、県下でも有数の学校環境となりました。その上冒頭にも書きましたように、夏休みに入ると同時に校舎大改修工事が行われました。一部教室変更、内外の壁面修復と、これまた見違える程明るい校舎にしていたゞきました。この良き環境と地域の皆様の絶大なる御支援と御厚情に支えられ、百三名の児童と十二名の教職員が心を一つにして伝統ある野木小づくりに励んでおります。

和室に恩師(小五、六年、中一担任)であった前中川知事さんの揮毫されました掛軸があります。

「終始」誠意
これは第二十三代高橋宗一校

この度上中学校教頭より母校であります野木小学校の校長としてお世話様になることになりました。母校への勤めも三回目

「二度あることは三度ある」との格言通り地域の皆さんの温かい御支援を得ながら五か月が過ぎました。

二回目の勤めの時(五十九年)、丁度同窓会設立発足の事務局員として、設立準備、同窓会誌創刊号作成等の仕事

長が中川知事さんにお願ひされ、野木っ子の願ひを書かれたものです。私の中学生の頃先生は「反省なき者に進歩なし」とよく言っておられました。この言葉は私の生活信条の一つとして今も生き続けております。真面目で素直な野木っ子を育成するための本校の教育目標を紹介させていただきます。

- 「自主性・創造性に富み・情操豊かな心身ともにすこやかな子どもを育成」
- 1. 筋道をたてて考える子
- 2. 思いやりのある子
- 3. 強い体力のある子

化粧しなおした野木小

本館大規模改修工事終わる

野木小学校本館が鉄筋三階建て校舎に改築されたのは昭和四十四年でした。その後、二十幾星霜がたち外装のよれが目立ち、雨漏りする教室が増えてきました。また教室の配置にも不都合な面が生じてきました。

- (1) 屋上の防水工事とフェンスの新調
- (2) 本館および体育館の外装
- (3) 各階の廊下の壁や天井の塗り替え

- (4) 二・三階児童便所の改修
 - (5) 各教室の整備(背面黒板やロッカーなどの新調)
 - (6) 特別教室の改装と配置替え(図工室、音楽室、更衣室、図書室、印刷室、放送室、器具室など)
- 二学期から児童たちは、見違えるようになった普通教室やもよう替えした特別教室で精いっぱいがんばっております。

- 4. よく働く子
 - 努力点として
 - 1. 自ら学ぶ子を育てて、学力を高める。
 - 2. 認め合い励まし合う学級集団づくり
 - 3. 気持ちのよい学校づくり
- 最後に野木の学校はと問われ
学校像⇒美しくて気持ちのよい学校
児童像⇒よく勉強し、明るいういイメージ化を目指しております。
- この恵まれた環境の中で、児童と教職員が力を合わせ、

育友会、地域の方々の御支援と御助言を賜り、微力ながら二十一世紀に生きる人づくりに努力していきたいと思っております。今後とも御協力の程よろしくお願い申し上げます。近くにおい出の節にはどうぞ気軽に母校へお立寄りください。お待ち申しております。



新調のフェンスと防水加工された



きれいに外装された本館



音楽室(旧図工室)の吸音壁

建築設計施工

建築工事一式・素材買入・製材

株式会社 畠中工務店

代表 畠中正雄

本社 上中(0770)64-1243 有線2304
FAX (0770)64-1145

上中営業所 上中(0770)62-0835

広いグラウンドを見わたせる放送室
(旧更衣室)



見ちがえるように、みがかれた手
洗場



グラウンド側に新設された器具室
(旧更衣室)



きれいで、気持ちよく使える
児童便所

ふるさとへのたより

ありがとう野木小学校

第五十五回卒

上中町小原 出口由喜美

(旧山形)

刈り取りの終わった田んぼの畔道に、真っ赤な彼岸花が咲くこの頃の季節になると、私は野木小学校を思い出します。

昭和五十八年に完成したラウンチルームには当時の松宮昂校長先生が描かれた壁画があります。その絵の下の部分に子どもたちと職員が好きな花を一輪ずつ描きました。何を描こうかとずいぶん迷ったあげく、私は「彼岸花」を描きあげたのでした。

昭和五十五年四月から昭和六十三年三月まで八年もの長い間、私は母校に勤めさせていただくという幸運に恵まれ

ました。初めて子どもたちの前に立ち、挨拶をした時に、(ああ、この子は杉山の子だ。この子は玉置の子だな。)とすぐに親御さんの顔を思い出すことができました。幼い頃、一緒に遊んだことを懐しく思い出したものです。また、中学校での恩師松宮昂校長先生、小学校での恩師田辺民江先生、福田富美子先生もおられて、まさしく親元に帰ったような安堵感の中で過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。

昭和六十年頃だったか、敦賀市在住の杉原厚子先生に来ていただき、講演をお願いし

たことがありました。子どもたちが朝からあくびをしたり、集中力がなかったり、長い間立っておれなかったり、と体の調子がどうも良くない子が目立ってきたのです。そこで、子どもの体と食事のことについて話をさせていただいたので

「かしこい子、丈夫な子にしたいでしょ?」
という話かけから始まり、あとというまに時間が過ぎてしまったほど引き込まれるようなお話でした。「朝食はとても大切です。朝ご飯で九品目以上食べさせなさい。みそ汁の具は三品目入れることです。……」とおっしゃったのが、とても印象に残りました。そこで、早速次の日の朝、子どもたちに尋ねてみました。ほとんどの子どもから「朝食が変わった。豆も食べなさいと言うんや。」

打てば響くと言えば、学級だよりなどを発行した時でもすぐにお家の方から反応がありました。とても励みになりました。やりがいを感じていたものです。教育というものは、家庭と学校が力を合わせてこそ大きな効果をあげるものです。
野木小学校在職中の八年間そのことを身に染みて感じてきました。本当に心より感謝しております。これからも毎年同窓生が巣立っていきますが、きっとすばらしい家族に支えられたすばらしい子どもたちだろうと思います。家庭と学校が一致協力して、未来を担う野木の子を育てていくという伝統はこれからも受け継がれていくことでしょう。いつの日か、また、ひょっとしたら同級生の孫の時代にもう一度野木小学校にお世話になることがあるかも知れません。その日を楽しみにして今回はこれでペンを置かせていただきます。

最後に、大変お世話になった御恩に感謝しつつ、野木小学校のますますのご発展と同窓会員の皆様方の御多幸をお祈り申し上げます。

生家が無くなって

第二十三回卒
小金井市 小森 隆 夫

今年の五月末、三方でクラス会があった。

昨年八月末に、若狭中核工業団地のため生家が取りこわされた。生家がなくなつた悲しみで楽しいはずのクラス会もなんだか空しい気持ちだったのか、後で「元気がなかつたが身体でも悪かつたのでは……」と二・三の同級生の方から電話をもらつた。ご心配をかけて申し訳ないと反省している。

堤で生まれたのは、姉の和子から下の兄弟姉妹である。野木小学校を卒業したのは姉の初子、兄の芳雄、正雄からである。その中で一番ヤンチャだったのは私である。堤の方が柿の木を植えて下さつた。それは私が小学一、二年だっただろうか。

五月のクラス会の後、小浜へ行く途中、汽車の窓から家のなくなつた造成地を眺め、松の木一本と竹やぶが残っているのを見て涙ぐんでしまった。故郷へ帰ってきて、もう泊る家もなくなつてしまつたと言つと、クラス会の皆様も私の家へ泊つてもいいのだが、女だからなあと言われ、また男姓の方は俺の家へ泊れよと言つてくれた。クラスの皆様のご親切に涙がこぼれた。

堤で生まれ、一年中堤にいたのは小浜中学一年までであつた。二年生になる時、あまにもヤンチャだった私は京都の報徳学校に行かされた。それから、狭い日本より

満洲（現在の中国東北地方）へ憧れ、昭和十二年渡満した。満洲国官吏として三年、その後軍隊生活、十九年に除隊してまた渡満、終戦の時は召集でソ連の捕りよとなり二十一年十二月十五日、四十七名をつれて脱走。二十一年十月二

十八日に博多に上陸帰国した。堤に帰つた時は、兄弟のうち私の消息だけがわからなくて心配していたとか。その時は元氣だった父が二十三日後に亡くなつた。私が最後に帰り安心して、急に病氣になつたのかと。親の子を思う気持ちを知り悲しみも大きかつた。その後、香川県庁に勤め、二十六年に警察予備隊本部勤務（現在の防衛庁）。長官の秘書官として吉田総理の大磯の私邸にも行つた。会談の応接室まで行き、総理が来られたので、挨拶をして引き下ろうとした時、総理がそこに座れと言われた。重要な会議なのに不思議に思ったが、座っていると、総理が葉巻をくわえられて「オイ」と言われた。結局は葉巻の火をつけるためだった。マッチをすつて火をつける時は手がふるえた。三十二年に長官が急に参議

院選挙に出るため、共に退職して秘書となり、三十九年に大臣秘書官となつた。

今はもう東京に住んで四十年。堤に生家があつた時は、事あるごとに帰つていたが、今はもう帰る家もない。悲しい事である。しかし、クラス会の続く限り、一年に一度は故郷に帰ることが出来る。家はなくなつても私の故郷はなくならない。いつまでも堤の皆様、野木地区の皆様を忘れることはない。

あの兼田から私の家へ帰る一直線の道、春は蓮花におおわれた田んぼで寝ころび、夏は北川で水浴び、秋は裏山での栗拾い、冬は雪で登校・下校の苦しみ。田植えの頃、下校の途中で堤の方から美味しいボタ餅などをもらったこと等、楽しい思い出、幼い頃のこの想い出を胸に元気で生きて行きたいと思う。

無題

第二十八回卒
保谷市 清水 正 通

野木小学校同窓会々々長さんから重厚な封書を頂いた。文面は御丁寧であるが、実は、

同窓会報に何か書けとおっしゃるのだ。もとより、この種の文章は苦手である。まとも

つたものが書ける筈がないので、謹んで御辞退申し上げようと迷つたが、考えてみれば平素は御無沙汰ばかりの弱味がある。逃げるわけにもいくまい、と心に決めて下手な作文を、割り当てられた字数の範囲内で書かせてもらうことをおゆるし下さい。

ことしも夏がやって来ました。東京・九段の靖国神社「みたま祭り」が行われている。全国から多数の献灯がなされている。本殿まで昇り、祭祀挙行の中で静かに手を合わせてきた。

過ぎにし日、お国のためにと軍籍に身を投じた。血のにじむ訓練に汗水を流し、起居を共にした同期生と、時至れば咲き、潔く散る桜、こんど会うときは靖国神社で、と西に東に袂を別かつたが、戦争終結して四十数年、不思議に命を永らえている。人生って何なのだろうか。

変動の時代の故か、共生、独自性（アイデンティティ）、あいまい（フアジー）、ゆらぎ、混沌（カオス）などなど、の言葉が流行する世の中である。こんな時代に、どんな方法で対応したらいいのだろうか、といつも思う。領域と方

法との関係のあり方は、どんな場合でも同じであろうが、領域は方法と呼び、方法は領域を造るといふ。領域が要求する方法と、理念・目的が要請する方法と、あれ、これ、うまくかみ合わせるのが、うまく生き方だと説く人がある。理屈ではそうであろうが、領域に裨させば流され、理念に働けば角が立つ、で流されたり、流されまいとしたり、角が立ったり、角を立てまいとしたりで、うまくいかないことの繰り返しである。

ことしは午(うま)年である。すでに中葉を過ぎた。駆けるように速い。他方、丑(うし)の歩みは相変わらず遅い。馬は曳けばよい。牛は追わねばならない。丑年生れの私、前から引かないで後ろにまわって追って下さった、小学校時代の先生方は、生き方の達人だったんだなと畏敬と感謝の念がしみじみと湧いてくる。私たちが野木尋常高等小学校に入学したのは、昭和六年四月である。同級生の多くは子年生れだが、私は丑年生れの最年少だった。在学中の家庭には大きなポプラの木があった。太陽光線の照り返し、そよぐ風が、子供のころの記

憶に重なりあう。「学び舎のポプラは高し五月晴れ」「涼しさや肌はなれよき麻衣」帰るべきふるさとがあることはありがたいものだ。

現代社会は、いわゆるように、価値観が多様化し、生活が個別化して、二律背反の多重構造ともいわれる領域、この中で国内の時代精神、社会理念は機能優位から、充実優位に移行しつつあるとの見方がある。合理主義思想によって支えられた機能優位の社会、この社会が、欠乏状態を背景に抱いてきた生活水準向上の目的達成という理念は、生活の豊かさを獲得し、ゆらぎ、混沌を伴って自懐しはじめ、これまで軽視してきた自己主張、生きがい、生活の質的充実という、充実優位の理念に移行しはじめている、という。この多様、混沌という領域と自己充実という理念とは、共生、秩序という方法でかみあうのである。自由と民主を軸とした多様の中での共生、混沌の中の秩序が日常生活、教育、政治のあり方といえるだろう。

現われ、自分の一生を振り返えるという能率の形式はうまく出来ている。時間的にも、場所的にも、異質のものがあから全体が充実するのだ、と教えられたことがある。世の中には、自然と人間との関係、人間と神との関係を含めて、自己の領分と他の領分とがある。自己の論理、生き方を他の侵略から、押しつけから守り、他への侵略、押しつけを行なわないところに共生があり、秩序があるのだ。ここに折目の正しさがある。ついでに、自然と神と人間といえ、この三つを西洋文化の三原理と説いた学説を思い出す。草木や生物が、自ら変化し、生長していく、生成という働きがみられる世界、

それが自然の世界である。万能の力で、自らこんな草木や生物を造る創造という働きのみられる世界、それが神の世界である。生長した木を伐り、削り、柱にして組み立てるなど、手を加えて木を活かす形、成という働きのみられる世界、それが人間の世界である。大体こんな筋である。達成は、到達する結果を大切にできたが、充実は、終着点のない道程を大切にしていく。達成から充実への時代の精神は、私たちのあるべき生き方ではなかるうか。他人への気配りを失い、自分のことしか考えなくなるという、老化現象には気をつけたいものである。

手伝い等をし、夕方になりますと、うどん粉の蒸しパン作り又風呂呂りなどの手伝いをした事を思い出します。又当時魚類は配給制度があつて、その家族の人数によって配られておりました。又着る物も継ぎを充てた物を着ていても、はずかしがることなく学校へ行き、今日のような服装で学校へ来る人は一人もなかったように思います。当時は今日のように、テレビはなく、ラジオが集落内に二、三戸の家庭にあり、このラジオも現在の様なりっぱなものではなく電気関係の器用な方が組み立てたものでした。小学五年生の昭和二十年八月十五日(施餓鬼)の日にある家庭のラジオで日本は戦争に負けたと云う事を聞き、子供ながらに残念に思った事でした。小学校六年間中学校三年間同級生全員が仲良く学び遊んだ事を思い浮かべると色々ありますが、中でも故中川平太夫先生が、民主主義と云う劇を自作され、あまり意味もわからずに学芸会で、一生懸命発表した事が今でも思い出されます。小学校も新築されて、色々な設備も充実された中で学校

思い出のまま

第三十八回
小浜市新保 河原 孝
(旧新田)

野木小学校を卒業して早や四十年余り過ぎ、本日に月日の経つのも早いものです。私達の場合は小学六年の時に、新教育制度が出来て同じ校舎で中学校も卒業させて頂き、本心に懐かしく思っ

います。小学校時代は戦争の真っ最中の時で食べる物、着る物は今日のような裕福な時代ではなく収穫された米も十分に食べられず、今から思いますと、小学校四年生の頃より家事の

生活が送れる現在の子供達は
大変幸せであり、学習に運動
に頑張って頂きたいと思いま
す。

野木を出てから約三十年程

無題

第六十九回卒

東京都世田谷区 倉谷清文

上中の土地を離れて、はや
六年が立ちました。ちょうど
野木小学校で過ごした歳月と
同じです。同じ六年間ですが、
随分早く感じられます。小学
校時代遊び学んだ頃の倍の早
さで、日々が過ぎていく様で
す。

高校を卒業してからは、ず
っと東京にいます。四年間、
学校で学んだあと、現在、広
告写真の撮影の仕事をしてい
ます。今の仕事を選んだのは
東京に来てからです。思えば、
小学校から高校に至るまで、
なりたいた職業が色々変わ
ったものです。小学校時代は
郵便屋さん、自動車の設計技
士などになりたくて、そうい
う夢を文集に寄せたことを思
い出します。

経つ今日でも野木は懐かしい、
心のふる里です。
最後に、野木小学校のご発
展と同窓会皆様方のご健勝を
お祈り申し上げます。

動として剣道クラブが発足し
たということがあります。そ
の頃、自由参加で各学年に数
名ずつしか部員はいませんが、
したが、夕方おそくまで練習
し、小浜の下根来小学校に遠
征して試合をしたこともあり
ました。当時、上中町内では
瓜生小学校が強豪で、いつも
敗れていました。しかし、在
学中最後の大会では、みごと
優勝したことを覚えています。

また、ゆとりの時間を利用
した農業教育として、「あす
なる農場」が出来たものこの
頃だと思っています。家では農家
をやっているも、実際にお米
やさつまいもといった野菜の
育て方を知ったのは、ここ「あ
すなる農場」での体験からと
いった人も多かったのではな
いでしょうか。

校舎の思い出としては、現

在の体育館が出来て最初の卒
業生が私達だったと思います。
すべてが真新しい体育館での
卒業式は、まだペンキの香り
が残っていた様な気がします。
ところで、野木小学校創立
以来、この学校を卒業してい
った人の数はもうかなりの数
字になると思います。現在、
ここ野木の地で生活している
人々もいれば、進学・就職・
結婚などで、この野木から離
れて生活している人々も多い
ことでしょう。

毎年、お盆、お正月の時期
のテレビニュースに見る多く

思いつくまに

第五十七回卒

旭川市 川瀬なほ子

(旧丸井)

の帰省客は、ただ身内や友人
に会うだけでなく、なつかし
い風景にほっと一息をつき、
安らぎを覚えているのではな
いでしょうか。自分を含め、
生まれ育ったところを離れて
生活している人達にとって、
「故郷」というのは心の奥の
どこかで支えになっていると
思います。

年に一度か二度しか再会出
来ない『野木の里』ですが、
その機会には、大きな支えと
また一つ新たな故郷自慢を発
見したいものです。

務員さん、いっしょに学び、
遊んだ友の顔も一人一人思い
出します。日頃、生活に追わ
れて昔の事など思い出すひま
もなかったのですが、あの頃
はのんびりしていて良かった
ですね。

秋の運動会、足袋をはいて、
かけっこをした事、北海道は
秋はかけ足でやってきてすぐ
雪が降りますから春に運動会
やってしまいます。

秋しか知らなかったのここ
ちらに来てからは何か物足り
ません。

冬は私を通ってた頃は結構
雪が降りマントですっぽり体
を包んで通ったものです。近
頃は上中も雪が少なくなったそ
うですか、現在は、旭川に住
んでいますから少々の寒さや
雪にはビクともしません。

そして、夏には川遊びや虫
とりでよく遊びました。

夏休みは長くて楽しかった
けれど、後半は宿題が残って
いつも大変でした。

北海道は、短くて二十五日
位しかありません。夏の方は
冬休みが長くしてありますけ
ど上中とは全く違った環境で
すが、旭川も住めば都で今で
は四季のハッキリしている梅
雨のない旭川が大好きです。

今年の夏、うれしかった事
は父が旭川へ初めて来てくれ
た事と、おばが道内の旅行先
から、電話してくれた事と、
私共のすぐ近くに住んでいる
同級生が、ご両親と逢いに来
て下さった事、二十年以上逢
っていない訳ですから、私の家
へ来てくれたからわかったよ
うなもので、街の中で逢って
もわからないで通り過ぎるで
しょう。

髪は白いものが混じりよく見えないと昔の子供の頃の面影は見当りません。

それもそのはず、お互いに、中年と呼ばれる年代になってきましたから。

上中から遠く離れた北の果ての同じ地区に、同級生がいるという事は、おどろきと共にとても心強いものです。そんなに逢う事もないだろう

思い出

第六十六回卒

高槻市 能世由佳里

原稿を依頼されるなど、思い掛けない事で、何を書こうか思い悩んでしまい、ふと気が付いた時にはもう切が来てしまっていた。

情けない事であるが、夏休み(あるいは冬休み)の宿題を、いつもギリギリになってから慌ててやっていた私は、今、その事を思い出さずには

いられないのである。 当り前の事であるが、毎日少しづつやっていたら、当然慌てる必要はないわけで、それこそ、夏休みあるいは冬休みの友と思う事ができたのだろ

うけど、同じ街で頑張っているだろうなと思うだけで、はげまされま

そして遠い上中でも、もっと遠い所でも同窓会の皆様の活躍されている様子を会報などで知り、私も頑張ろうと思

いなおします。 これからの会員の皆様のご発展とご健康を心よりお祈り致します。

ったりも、しばしばであった。夏休みも終り近くになると、よく八月のカレンダーを眺めながら、これが七月だったらなあなどと考えていたものである。

そういう呑気な私であったが、遊びばかりではなく、お手伝をしていた事もちゃんと覚えて

小学生の頃であるが、その頃うちでは鶏を何羽か飼っており、そのエサやりを、祖母から教わり手伝っていた。 エサの作り方はごく簡単で、まず、菜っぱを細かく刻んで市販の飼料とまぜ、それに砕いた貝殻を加えれば出来上

である。小さかった私には、その包丁を使って何かを切るという動作そのものが、何か一人前になった様な気がしてうれしかったのである。

そして、それを雨どい型のエサ受に入れてやると、鶏達

は次々とケージから首を出してせわしなく喰べ始めるのだが、くちばしの当る音が、コツコツとともやかましかったのをよく覚えて

野木小学校へ転校してきたのは、昭和十九年の十二月だと思

四十数年前の思い出

第四十一回卒

小浜市雲浜 山本俊雄

しに、当らないよう素早くやらなければならなかった。当

今から思えば、あまり役に立っていなかったのかもしれない。

今ではもう無い、あの鶏小屋での、白熱灯に照らされた、なつかしい思い出である。

当時の十二月と云えば、今の十二月と大きく異っていたように思

まるでわからない。細い一本道で、マントのすそは、雪にまみれ、長靴の中は、雪

足が冷えるので、葉の芥を入

中

入

たものです。

小学校の四年頃からか、野球を覚え始めました。初めの頃は、テニスボール(軟式)で、ピッチャーは、今のソフトボール同様、アンダーハンドで打球し、それを手で打つたものでした。何故なら、今のテニスボールのように良質のものでなかったため、バットで打とうものなら、すぐに割れてしまったのです。

その後、バット、グローブは当然のこと、ボールまで手製のもので、毎日やったものでした。実際に、グローブを買ってもらい、先生の指導を

スポーツを楽しむ

第四十三回

神奈川県葉山町 奥田 宗太夫

小学校に入学したのは、終戦の翌年の昭和二十一年である。先日の新聞の投書欄に「アメリカ軍人(GI)の投げ与えるチョコレートなどに群がる子供達を見た屈辱感、しかしドイツの少年は『ドイツ民族は決して敗北しない』と言って靴で踏み砕いた」旨の記事があった。厳しい軍国主義も食糧難の前には、ひとたまりもなかったわけだが、翻っ

受けて、野球を始めたのは、中学生になってからでした。当時は、伊藤先生だったと思います。本当に熱心な先生でして、放課後は欠かさず、猛練習をした思い出があります。

終戦後の何もない頃に、好きなことをさせてもらって、育ったことに感謝しています。物があって恵まれていて、必ずしも強かったり、丈夫であったり、と云うことはありません。今一度、世の中を考え直してみるときでしょうか……。

て今はまさに飽食の時代である。この格差の大きさ、当時は誰も想像しなかったであろう。

私達の世代は、戦後の出発と共に義務教育を受け、高度成長時代を経て、現在の経済大国と言われる時代を生きているのである。義務教育の最初、杉山の子供は三年間、分教場における複式学級で勉強した。全員で十五、六人だっ

た。一年生の時は担任の先生が定まらず、先生不在の時もあったが、本校から当番の先生が見えたりした。今は亡き中川平太夫先生も二、三回こられたが、いつも誰かがけんかをしているので、職員室の前で怒られるのが常だった。あるとき、私はけんかの仲間に入っていないかったので、今日は怒られることはないと思心していたら、中川先生から「君はなぜけんかを止めなかったのか」とやられてしまった。今思い出しても自らの不徳に恥じ入るところである。四年生になって、本校へ行ったが、わずかにソロバンがましな程度で、社会科などちっとも分からず、奥本君達に教えてもらって、なんとか切り抜けたものである。

言葉など

日頃から、家庭の内外で、関西弁に接することは少ない。帰省するのは、せいぜい一年に一回程度であるが、米原あたりまでくると、啄木の「ふるさと」の訛りなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく」や、室生犀星の「ふるさと」は遠きにありて思うもの」といった歌が思い出される。私の言葉について「関西弁

は出ませんね」という人もいますが、先日、ある人から関西の出身ですかといわれた。なぜ分るのかと言ったら「切符」と「切符」の発音のアクセントからそう思ったということであった。東京あるいはその近辺で生活して二十八年余になるが、小さい時から身につけたものは、強いものである。

分教場より本校の方が進んでいる、上中より小浜の方が進んでいる、地方より都会の方が進んでいるということから、私は何事もゆっくり後からついて行くことでよしとする考えを持っているようだ。自分と比較して「条件のよいところで育ってこんなことも知らないのか」というようなことを以前は言った。勉強にしても「学問に王道なし」とか、「ゆっくりしていてもあとで追いつけばよい」とか、「予習、復習すれば、塾はいらない」とか言った。自分の子供にも、これに似たことは言ったが強制はしなかったし、自由によっていたと思う。

ある友人は「秀れた先生の秀れた指導を受ければ学力は画期的に伸びる」と言っている。そういうこともあると思

う。人それぞれ千差万別であるから、自分の経験や考えを強制しないよう自戒し、自分と違った考え方があることを理解することが重要である。

私は、都会育ちなら、もっと文化的な人間になったかなと考えることもあるが、地方育ちにはそのよさがある。当然のことながら、地方の長所は伸ばし、短所は努力によって補うということであろうか

硬式テニス

兼好法師も「何事も先達は欲しいもの」といったことを言っている。習い事してみると、指導者の重要性を痛感する。

テニスは三十代の前半に十数回やってみてそのままになっていた。今年の六月までの三年間甲府市に単身赴任をしていたが、その途中で始めた月四回、二十か月で計八十回一回九十分のテニスクールへ通ったが、いまだにサーブはうまくできず、自宅通勤になってからやめている。私の二女もテニス部に入っていると言っているが、余り熱心ではない。せっかく始めたのだから、今後は時々でもやりた

水泳

もう七年にもなるかと思うが、日曜日に一回一時間のスイミングスクールに通っている。用事があるとか疲れたとか言って、月一回位の時もあるが、とにかく続けている。初歩から始めたが、クロールの息つきがなかなか出来なかった。それができるようになってから、様になっていないがバタフライ、それに背泳ぎ、平泳ぎと四種目を泳げるようになった。よい運動になる。

ゴルフ

はじめは止まっている球を打って歩くなどやる程のことはないと思っていた。しかしゴルフは趣味というより、マージャンと同じで、つきあいであり、教えてくれる同僚もいて、昭和五十一年に始めた。数回の練習でコースへ出たが、三回目位るとき、マナーをいろいろ教えてくれる先輩と回った。スコアは悪く肩身は狭いし、いやになったが、今から考えるところもなことであった。その後の自分の考えも含めその要点を述べる。と次のようなことである。

○プレーを早く、次々にスタートして来るから、流れを止めてはいけない。早く歩き、素振りはいせいで一回で、さ

っさと打つ。大相撲秋場所の新聞記事に、霧島は緊張の長さに耐えられずとあったが、ゴルフもリズムが大切である。○ゴルフ場を大切に、素振り芝を傷つけるのは迷惑なことと思う。また、グリーンでは走ったり、飛び跳ねたり、ひきずったりして、芝を傷つけないようにすること。

○同伴競技者がいやがることはしない。他の人のショットやパットの時に話をしない、動かない、真後ろなど視野に入るところに立たない。

また、安全には特段の注意を払い、打者との平行線より前には決して出ない。打つ方もとんでもない方向へ打たないように努力すること。ゴルフには危険が伴うとの認識が必要である。

さて、脱線しつついろいろ記したが、スポーツは中学時代までで余りやらず、三十年代までは、マージャンと囲碁ばかりやっていた。身体を動かすのが好きな方でなく、生来、怠け者で、強制されるとか恥をかかされるとかしないとか何事もやらない性格である。しかし最近では、「好きなこと」「得意なこと」より、「やりたいこと」をやりたいと思っ

ている。ただ、あれこれやるが一芸に秀でない。そして何かと懐疑的になりやすい私に對し、そうした気持ちを払拭するよう、若い友人は、マッカーサー元帥が掲げていたと

向山古墳の発掘調査を終えて

第二十五回卒

副会長 福田善正

向山古墳は堤井根山付近、向山山上にあり、ここの一帯は野木村誌にも書かれてあるように昔から古墳や城跡等の遺跡が数多く確認されている処であります。明治三十三年には向山の西側の尾根先から弥生時代の銅鐸も出土していま

す。今回の調査の契機は向山の山裾の土取りが墳丘の破壊に及ぶ恐れが出てきた為、文化庁の認可を得、上中町主体(教育委員会)の事業として実施し、若狭歴史民俗資料館学芸員の指導の下、京都大学考古学研究室の学生達の協力を得て発掘を実施してきました。第一年度(昭和六十二年)は、古墳の外表につき調査した結果、古墳は全長四十八米

の詩を読むことを勧めた。「青春とは人生の或る時期を言うのでなく心の様相を言うのだ。人は信念と共に若く、疑惑と共に老いる。」以上

の前方後円墳である事が確認されました。又古墳の築造法はほとんど地山を削り前方後円墳に整形され、しかも二段に築成されていて、上段は野原で、下段には近くの山石でぎっしりと石が葺かれている事が判明、更に上下段の間の

平担面並びに斜面中央のテラスには朝顔形埴輪を含む円筒埴輪列が五十センチ間隔でめぐらされ、同じ密度で並べられているとすれば約二百七十本の埴輪が用いられた事となり、墳頂部にも全周に同筒埴輪が存在したと推計されます。その総計は四百本にも及び円筒埴輪が用いられた事になります。お祭りをを行う場所も判明しました。この事から考察しますと、古墳が造られ

た当初は立派な葺石を持ち埴輪で飾られたさぞかし見事な光景だったと思われます。古墳の造られた時代は土器質、埴輪の型式から五世紀中葉今から一、五〇〇年前の古墳であると推定されました。

第二年度(昭和六十三年)

は埋葬部その他の調査を実施しました。前方後円墳では後円部に死者を埋葬しますが、この部分が丸くへこみ、これは石室の天井が落ちてくるか又軽い盗掘の為の形跡でありました。調査は進み後円部の埋葬施設は前方部へ入口を持つ横穴式石室で、現在確認されている限り本洲最古の横穴式古墳である事が判明(九州には分布しているが)しました。

人骨は残っていませんでしたが副葬品の配置から一人であったと思われる、同時に副葬品の種類、組み合わせや配置によって葬られた人の性格、送葬の儀礼の様子等も知る事ができます。発掘された副葬品が葬られた元の位置のまま見つかりました。副葬品は鏡二面、短甲二領、鉄刀七本、鉄劍四本、鉄鉾三本、鉄槍一本、鉄鏃東(二束約三十本)刀子四点、こはく玉多数、ガ

ラス玉多数(百五十点)、堅樫二十二点。

更に前方部を発掘したところ埋葬施設は見られなかったが、武器や武具を納めた長方形の埋納壙が発見され、被葬者の性格を反映する施設として貴重なものです。ここから発掘されたものは、鉄刀七本、鉄鉾二本、鉄槍一本、鉄鎌(やじり)約五十本、短甲(よろい)一領、その他槍につけられたと思われる銀製のかざりも見つかりました。武器・武具のみを納めたと思われる施設を持つ古墳は畿内以外の地域では極めて珍しい例だと言えます。又一つの古墳に三領もの短甲が見つかった例はそう多くはなく、この古墳に埋葬された人物はかなりの権力者であり、軍事に深くかかわっていた事が暗示されます。

です。

この朝鮮製の耳飾は、新羅救援を名目とした大和王権による氏族の朝鮮派遣が契機になって舶載された可能性が指

着工から一年

若狭中核工業団地の造成着々

工業振興や雇用拡大など、あらゆる面で嶺南地方の活性化につなげようと県と地域振興整備公団が上中町で進めている若狭中核工業団地(若狭テクノバレー)の造成工事は、昨年九月の着工以来、一年余りが経過した。

現在まで五四%の造成が完了。平成四年度中の操業開始を目指し、順調に進ちよくしている。既に工業用地の半分を占める二社(エレクトロニクス関連特殊ガラスのトップメーカーである日本電気硝子と産業用繊維資材関連大手の芦森工業)の進出が決定。残りについても引き合いは多く、最終的には十一、十二社で完売できる見込みとのこと。



54%の造成が進められた若狭中核工業団地

摘されています。特に武人的性格を持つこの古墳は、出土した事実から膳氏一族の首長墓ではないかと思われるています。

どうぞよろしく

新入会員二十五名です

- 秋晴れに 露がぼつぼつ 北浦慎也
- しずくする 夕焼け雲に 内藤珠美
- 空をはさむ 竹村勝規
- 赤とんぼ 静かにとどめよ 中村好江
- 蜜峰を すみれ草 内藤弘章
- すみれ草 真赤に染める 朝の顔
- 彼岸花 真赤に染める 稲刈の 終わる頃には
- 帰り道 田中友博 赤とんぼ
- 祭囃子 大きく響け 桑原恵子
- 夏の夜に 内藤雅人 夕暮や すすきに遊ぶ
- 夏の田に 緑波うつ 堀口幸子
- 野木の里 清水達見 今朝秋や 本読みふけり
- 蝶蝶が ひらひらと舞う 秋の日の 山すそに飛ぶ
- 里の朝 中川善順 赤とんぼ 霜中悠希
- 秋の山 色とりどりに 朝起きて 里一面の
- 自慢して 正木和宏 銀世界
- 雪降りて 子供の声か 夏の世界 やがて日がくれ
- 村の中 倉谷三次 林檎色 塚本直子
- 鉄棒に 雪がちらちら 赤色に 大きく熟れよ
- 舞い降りる 清水将至 豆トマト 辻本佳寿美
- 山景色 知らないうちに 桑原知子 帰り道 とんぼ追いかけて
- 秋模様 つゆにぬれてる 日が暮れる 居関博子
- 通学路 つゆにぬれてる 彼岸花 竹村鈴子 赤とんぼ 真赤な空に
- 雪とけて この学校を 倉谷真由子
- 采す 竹村洋恵

児童の作品コーナー

えんそく

一年 田中麻衣子

わたしはきょう、えんそくにいきました。そして、ちょっとこわいすべりだいにのりました。なんかいものってすべっていたら、だんだんおもしろくなってきました。つぎに、ロープウェイみたいなものものにのりました。おもったほどこわくなくったです。それからガリバーのおなかのおおきさをみました。ジャングル・ジムのなかにたまたごみみたいなものがあり、なかにはいつてようとしたらすべってなかなかでられませんでした。ガリバーのおなかってあんなにおおきかったのかな。つぎに、またすべりだいにのりました。でもこんどはロープすべりだいです。がたがたしておしりがよくうごきました。いいかっこうをしてせんせいにしやしんとつてもらいました。つぎにおおき

くものすみtainあみにのり

ました。あかやおおきいろ

いあみです。まゆみさんが、

いちばんにのりました。みゆ

きさんが二ばんでわたしは三

ばんです。やすこさんがさい

ごにのりました。そのときに、

おかあさんごっこをして、ま

ゆみさんがおかあさんです。

みゆきさんがおねえちゃん

で、わたしとやすこさんがこども

になりました。だからまゆみ

さんは、いつも一ばんにい

きました。あみをわたって、ぶ

らんこにぶらさがるところは、

みんなでおうえんしてあげ

ました。

「ほら、やすこさん、もうち

よっとでおりられるよ。」

といつてあげました。四人

キアキアいいながらたの

しくあそびました。とてもお

もしろかったです。

遠足

二年 宮川ゆみ

きょう、わたしは五時半におきました。そしたらもう、

おかずができていてびっくりしました。お姉ちゃんも、たくやお母さんもおきていて、わたしが一ばんおそかったの

ではずかしかったです。

学校に行つて、二年生は一

ごう車にのりました。バスの中

では、クイズをしたりうた

をうたったりしておもしろか

ったです。

風車村について、ひろ子

ちゃんとやすちゃんをわたし

でいっばいあそびました。が

ちようや白ちようが池にいて

きれいでした。

つぎにガリバーりよう村

に行きました。さかをのぼ

たらえらかったです。ついで

すぐにアスレチックであそび

ました。先生が

「おべんとう、食べなさい。」

といったので、おべんとうを

食べました。それからくだも

のとおかしを食べてまたあそ

びに行きました。

ロープすべり台が一ばんお

もしろかったの、何回もす

べりました。わたしが、はし

本先生のうしろにならんど

たのに、みつあみの女の子が

来てぬかしたのがいやでした。

ラピュタのとりで、たか

いとところのぼったら、こわ

くておりられなくなつたので、

ぎやくもどりをしてみんなのほうに行きました。先生もかいだんからおりて、みんなのほうにきました。みゆうちゃん、

「ハンモックみたいや、気も

ちいい。」

といつてあみの上でねたので、

みんなも、あみの上でねなが

らはねました。

よくあそんだのでつかれました。でも、とてもおもしろ

い遠足でした。

遠足で行つた

風車村

三年 奥本和也

きょうは、とうとうま

まった遠足の日です。風車村

にはいろんな風車が回つて

います。まず、トイレに行つて

回るすべり台に行きました。

おうふく五回もしました。グ

ルグル回つてとてもおもしろ

かったからです。

次に、三びきの子ぶたの家

へ行きました。さいしよにわ

らの家へ行き、次に木の家に

行きました。丸いすががあり

こしをかけました。らくちん

でした。つかれがとれるまで

すわつた後、れんがの家へ行

きました。やはりここにもいすがあります。トイレかと思いましたが、いすとわかつて気もちよくこしかけました。次にかぼちゃの馬車に乗り

ました。

「いつて。」

ゆれて、かねで頭を打ちまし

た。とてもいたかつたです。

大きな声でさわいだので、の

どがとてかわきました。そ

の時飲んだ水はとてもおいし

かつたです。おにいちゃんも

飲みに来たのでかわつてあげ

ました。おにいちゃんもゴク

ゴクと飲んでいきます。あひる

の船にも乗りました。先生が

おすと、中でゴンゴンぶつか

りました。

「と、と、め、て。」

と言うと、先生がとめてくだ

さいました。

次に、また、すべり台に行

きました。

「わーっ。」

と声が出てしまいました。や

っぱりすべり台が一番おもしろ

かったです。

笛が鳴つたので、ガリバー

旅行村へとむかうバスに乗り

ました。

連合体育大会

四年 武倉瑠美

九月二十六日に連合体育大会がありました。私は百メートルと混合リレーの選手でした。

最初の百メートルは、どきどきしていましたが、むちゅうで走ったら二位になりました。うれしかったです。

次に出るのは午後なので、安心して鳥羽の西川博絵さんと話をしていました。みささんは、たくさん友達を作っていました。

お昼は六年の持久走が終わってからです。おなかのぺこぺこだったので、お母さんの作ってくれたお弁当はとてもおいしかったです。放送で、百メートルの決勝に出る人の名前を言っていました。私の名前もみきや君の名前もありました。

午後の始めは百メートルの決勝です。みきや君は二位になりました。わたしも一生けん命がんばったけど四位でした。くやしかったです。

最後は混合リレーです。私

はスタートで一位になりました。次はバトンをみきや君にわたしました。みきや君も五、六年生もずっと一位でした。みんながんばったので、野木が一位になったんだなあと思いました。とてもうれしかったです。

へい会式で、ときき君やみきや君は一位で名前をよばれて、とてもうれしそうでした。

おまつり

五年 桑原晶子

八月十六日は、武生のお祭りのぼんおどりがありました。その日、私はお母さんの親もとに行っていて、夜の八時ごろ家へ帰って来ました。

加奈ちゃんや悠紀ちゃんたちは、ゆかたを着て集まっていました。私が、「なあ、どこいく?」と聞いてみると、「ちよっと散歩してくる。」

と言いました。私もすぐにゆかたに着がえて、みんなと散歩に出かけました。しばらく歩いていると、加

奈ちゃんが、「なあ、晶ちゃん。空、見て。

星きれいやなあ。」

と言いました。私は空を見上げました。うす黒っぽい空にキラキラ光る星が、いくつもいくつも、かがやいています。このあいだ、都会の親せきが来て、夜空を見上げて、「きれいやなあ。」

と言っていたのを思い出しました。都会では、こんなにた

くさん、こんなに大きく星は見えないそうです。私はその時、「こんな所に生まれてよかった」と思いました。

かい中電とうもつけずに、くらい夜道を散歩していると突然、火花が上がりました。有美さんの家からです。有美さん

もいっしょにさそって、今度は、お祭りのやっている方へ行きました。大人のたちが楽しそうに、ぼんおどりを

しています。最初は、はずかしくて見ているだけでしたが、有美さんのお母さんに「あんたらも、おどきな。」と言われたので、いっしょにおどりました。最後のちゅう

せん会では、五等が当りました。この日は、夏の思い出に残る、楽しい一日でした。

ニュース

各教室に

新しい

テレビを

本館改築時に備品として購入していただいたテレビも二十年余り経過し、大変うつりが悪くなりました。そこで、

今度の本館改修を機に新調していただきました。各方面にお願

いしましたところ、五年前のグラウンド整備事業の残額(百万円)の有効活用としてテレビ購入費に充てさせていただきました

ことが運営委員会にて承認されました。早速二十五型を七台、二十六型三台、三十三型一台の合計十一台を各教室に備えつけました。これまでは一段と大きく鮮明な画面に児童たちも大喜びです。皆様方の母校愛とうるわしい魂の結晶であり、有意義に活用させていただきます。どうぞ

がとうございました。

あとがき

○会員の皆様お元気ですか。平素は本会発展のために特段のご理解とご協力を賜りありがとうございます。

○さて会員の皆様方のご協力によりまして第五号をお届けします。ご多用にもかかわらずませず中身の濃い原稿をお寄せいただき、編集委員一同喜んでおります。ただ委員の微力のため心ならずも発行が遅れましたことをおわびします。

○遠隔地にお住まいの方々とって野木の里や友人のことなど会報から野木の匂いを感じとっていただければ幸いです。

○同窓会員名簿の残部がいくらかございます。ご希望の向きは、送料実費千円を添えてお申し出ください。

連絡先 千九一九一五
福井県遠敷郡上中町武生
野木小学校

☎〇七七〇(五七)一三〇〇